



## 親ががんになったことを、未成年の子どもにどのように伝え、支えるか①

### □ 患者さん・ご家族からよくある声

- ・子どもになにをいつ、どうやって伝えるか
- ・「がん」と伝えて子どもは理解できるのか
- ・年齢差があっても、きょうだい一緒に伝える方がいいのか
- ・伝えた後の子どもの反応が心配
- ・子どもに伝えると周囲に話してしまうんじゃないかと心配
- ・療養中の自分について、子どもがどのように感じたり、考えたりするのか分からない

### □ 大切なこと（言えることから伝える）

「し」：質問にわかりやすくこたえる

子どもが使う言葉を用いる

「り」：理解できるように子どもの年齢に合わせて説明する

『親ががんになったことを未成年の子どもにどのように伝え、支えるか②』をご参照ください

「た」：タイミングをみながら伝える

外見/日常生活/親子の習慣が変化する時 等

「い」：いつも通りの日常をなるべく保つ

子どもの生活リズム/習い事等を維持すること

### □ 関連する資料のご紹介

- ・がん情報サービス「未成年の子どもがいるがんと診断された方へ」：子どもとのかかわりを考えるときに
  - ・「がんはどんな病気？」（小学生以下子ども向け）
  - ・「わたしだって知りたい！」（小学生親対象）
  - ・「だれも分かってくれない！」（思春期の親対象）
- （ノバルティス ファーマ株式会社のホームページ「患者さんへの支援」からダウンロードできます）



未成年の子どもに親の病気について伝えようと思ったら、迷われると思います。現状に合わせて言えることを選び、親子の関わりを考えてはいかががでしょうか。